

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 五 十 嵐 美 代 枝 姉 妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 6:1 我 ら の 御 神 は 天 地 続 べ ま す

わ れ ら の 御 神 は あ め つ ち す べ ま す

国 々 島 々 喜 び た た え よ アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 30:1 いとも尊き主は降りて

いとも尊き主は降りて 血の値もて民を救い

聖き住まいを造り立てて そのいしずえとなりたまえり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 26 聖 餐 式 主 日 ① ( 記 念 )

あわれみ深い<sup>ふか</sup>天<sup>てん</sup>の父<sup>ちち</sup>なる神<sup>かみ</sup>さま、あなたを讃<sup>たた</sup>えます。わたしたちの救<sup>すく</sup>い主<sup>ぬし</sup>は、苦<sup>くる</sup>しみを受けて死<sup>し</sup>ぬ前<sup>まえ</sup>、聖<sup>せい</sup>餐<sup>さん</sup>式<sup>しき</sup>を制<sup>せい</sup>定<sup>てい</sup>し、主<sup>しゅ</sup>が再<sup>ふた</sup>び来<sup>こ</sup>られるときまで、主<sup>しゅ</sup>の死<sup>し</sup>を記<sup>き</sup>念<sup>ねん</sup>して覚<sup>おぼ</sup>えるよう<sup>めい</sup>にお命<sup>めい</sup>じになりました。それゆえ、わたしたちは、聖<sup>せい</sup>餐<sup>さん</sup>にあずかるとき、主<sup>しゅ</sup>の受<sup>じゆ</sup>肉<sup>にく</sup>と聖<sup>せい</sup>なる生<sup>しょう</sup>涯<sup>がい</sup>、苦<sup>くる</sup>しみに満<sup>み</sup>ちた死<sup>し</sup>と栄<sup>えい</sup>光<sup>こう</sup>に満<sup>み</sup>ちた復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>、昇<sup>しょう</sup>天<sup>てん</sup>と神<sup>かみ</sup>の右<sup>みぎ</sup>への着<sup>ちゃく</sup>座<sup>ざ</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えます。そして、絶<sup>た</sup>えずわたしたちのために執<sup>と</sup>り成<sup>な</sup>してくださっていることを感謝<sup>かんしゃ</sup>します。(Iコリント11、ローマ8、ヘブライ8～10)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 全国高校生修養会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖 書 朗 読 ルカによる福音書8章19～21節 (新約聖書119頁)

説 教・祈 禱 「神の家族」 熊田雄二牧師

\* 賛 美 歌 30:24 四方の国より選らばるれど

2 よもの国より選らばるれど 望みも一つわざも一つ

一つのみかて共に受けて ひとりの神を拝み頼む

4 世に残る民 去りし民と 共にまじわり神を仰ぎ

とわの安きを待ち望みて 君の来ますを切に祈る アーメン

\* 主 の 祈 り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる 父・御子・御霊の

ひとりの神に 御栄え尽きざれ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老(司会・受付 次週:門脇献一長老)

本日 受付 1階:古澤迪子執事 2階:大日南信也執事/動画:大日南信也執事 録音:雨宮信長老

次週 受付 1階:那珂信之執事 2階:加藤良明執事/動画:門脇光生兄弟 録音:森永翔馬兄弟

## I 場面 v 46

この話はいつのことか書いてないが、マタイ福音書によれば「イエスがなお群衆に話しておられるとき」です。ですから、種まきのたとえをお話になっておられる時です。そこで「聞く耳のある者は聞きなさい」と言っておられることに続いている話です。結論から言うと、21節の「神の言葉を聞いて行なう人たち」とは15節の「良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たち」です。

## II 母と兄弟たちが来た理由

「さて、イエスのところに母と兄弟たちが来た」わけですが、その理由が書いてありません。ルカは案外詳しく書いてないところがあります。ここは、マタイによると「話したいことがあって」とあります。が、何を話したいのかは、マルコ福音書によって分かります。Mk 3：21「身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。『あの男は気が変になっている』と言われていたからである」。つまり、話したいこととは「家に帰りなさい」ということです。

しかし、家族は、イエス様のことを本当に「気が変になっている」と思ったのでしょうか。マルコ福音書を正確に読むと、「身内の人たちは『あの男は気が変になっている』と言われていたから、イエスのことを聞いて取り押さえに来た」のです。家族の人たちは、長男のイエスが気が変になっていると思ったんじゃないでなくて、気が変になっていると言われていたからです。

では誰が、「あの男は気が変になっている」と言っていたのでしょうか。大勢の群衆は、イエス様の業と言葉に感動して付いてきたので、「気が変になっている」と言ったはずはありません。悪意のある人たちです。ファリサイ派、サドカイ派というユダヤ教の派閥が、すでにイエスの命を狙っていました。彼らが「イエスは、悪霊のかしらによって悪霊を追い出しているから、気が変になっている」と、言った可能性があります。

母や兄弟たちは、本当にイエスが「気が変になっている」と思ったはずはありません。兄弟たちは、兄さんのイエスの言葉と行ないを、子供の時から見て分かっていたはずで、だから後に「主の兄弟ヤコブ」と記録される弟子がいました（ガラテヤ1：19、ヤコブの手紙）。

特に母マリアは分かっていたはずで、これについてはルカが詳しいです。ルカ2章。v 19母マリアは、すべて心に留めて思い巡らす思慮深い人。v 48～52イエスの成長過程でもそうでした。v 51母マリアは、すぐ理解できなくても、すべて心に納める思慮深い人です。

母や兄弟たちがイエスを取り押さえに来た理由は、おそらく、二つです。一つは、「イエスの身に危険を感じた」から（マタイ12：14）。もう一つは、自分たちに身の危険を感じたからです。ファリサイ派やサドカイ派を中心とするユダヤ教当局に逆らわない方がいい、という判断です。

### III イエスの兄弟姉妹・母

さて、とりついだ人は、「母上と御兄弟たちが、お会いしたいと外に立っておられます」と報告しましたが、イエスは「私の母、私の兄弟とは、神の言葉を聞いて行なう人たちのことである」と言われました。マルコ福音書とマタイ福音書によると「ここに私の母、私の兄弟がいる」と言われました。外ではない、ここに家族がいる、と言われたのです。

大勢の群衆がイエス様の話をきいている「ここ」です。主イエスの話を聴いている所は、どこでも「ここに神の家族がいる」ということになります。ガリラヤ湖周辺の町や村の集会所（シナゴグ）でも、誰かの家でも、イエス様の話を聴いている所は、どこでも「ここに神の家族がいる」という所になるのです。

これが本当のキリスト教会であることは、今も同じです。教会の礼拝でも、誰かの家の家庭集会でも、主イエスの話を聴いている所は、どこでも「ここ」とイエス様が言われる教会になります。「ここ」ではイエス様の声がするのですが、「ここ」ではなく外では、家族や友だちの音がします。

「宗教もいいけど、凝り過ぎない方がいいよ」、「クリスチャンになったら結婚がうまくいかなくなるんじゃないの?」、「お前は、親が死んでも線香を上げてくれないのか」、「お前のためを思って言っているんだ」。確かに私のためを思って言ってくれるんでしょう。しかし、私の永遠のためを思って言ってくれるんじゃないのです。

主イエスは言われました。イエスの家族とは「神の言葉を聞いて行なう人たち」です。「だれでも、天の父の御心を行なう人」です。「天の父の御心を行なう」とは、何かすることが第一ではありません。イエス・キリストの父なる神の御心は、まず第一に、イエスをキリストと信じることです。イエスが救い主、メシアであると信じることです。だから、群衆は、まさに、キリスト告白へと導かれようとしていました。

ヨハネ19：26～27 「イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、『婦人よ、御覧なさい。あなたの子です』と言われた。それから弟子に言われた。『見なさい。あなたの母です。』」母マリアも、この時から、教会の兄弟姉妹、父母という神の家族に入りました。

### IV 今ここにいるということをお大切にしよう。聖書から主イエスの声を聴きながら、しっかりとイエスをキリストと信じ続けること、イエスをキリストと信じるという神の御心をまず行なおう。

今、教会の中にいるだけで安心かということ、そうはいかないのです。以前この中にいたけれども、今はいないという人がたくさんいます。イエスの周りにも、「この人があるいはキリストか」と言う群衆は大勢いました。その大勢の中から「この人こそキリストです」と告白する人々だけがキリストの弟子となりました。

その違いはどこから来るのでしょうか。神の言葉を聞いて行なうか行なわないか、の違いです。天の父の御心は、まず第一に、神がその独り子をお遣わしになったほどの愛を受けることです。罪人を救うために神の御子を天からお遣わしになったことを信じることです。そして、神の愛を受け続けて、イエスをキリストと信じ続けることです。そのことを、聖書からキリストの言葉を聞きながら、神の家族の中で、教会で、豊かに養われ、確かなものとしていこう。教会は神の家族ですが、神の恩寵の手段でもあります。